

RAISING BILINGUALS 正しい伸ばし方

児童英語 年齢の特性に合わせた方法で学べば
本にいながらにして高度な語学力を身に付ける道も

小学5～6年の英語が正式な科になる、大学入試改革でスキンシングを含む4技能が試される。そんなニュースを聞くことは不安に駆られるものだ——はり早くから英語を習わせるうがいいのか、英語教室に集まつたうだけで将来役立つ英語が身に付くのか、と。答へは、子供の状況や目指すゴールによって千差万別。それも外国語習得の研究成果を基考へれば、日本のように日常英語を使わない環境で学ぶ限界と、それを乗り越えるの必要性が見えてくる。

う。親としては、幼少期に学び始めれば外国語も母語と同じ要領で楽に身に付くと期待しがちだが、そう簡単な話ではない。確かに幼少期は言語習得に適した時期で、各言語に触れる時間が十分あれば複数の言葉を自然な形で覚えられる。日本人家庭の子がプリスクール（未就学児を英語で保育する施設）に週5日通うなどして、ネイティブの子と大差ない流暢な英語を話す例も増えている。

だが多くの家庭にとって、リスクールという選択肢は経済的にも心理的にもハードルが高い。日本語の会話に支障が出ることは通常ないが、日本語での読み書きやコミュニケーションが手

子供だけに学ばせない

こうした環境では早くから学ぶことより、家庭で日本語の豊かなコミュニケーションを意識することが後の英語力につながる。

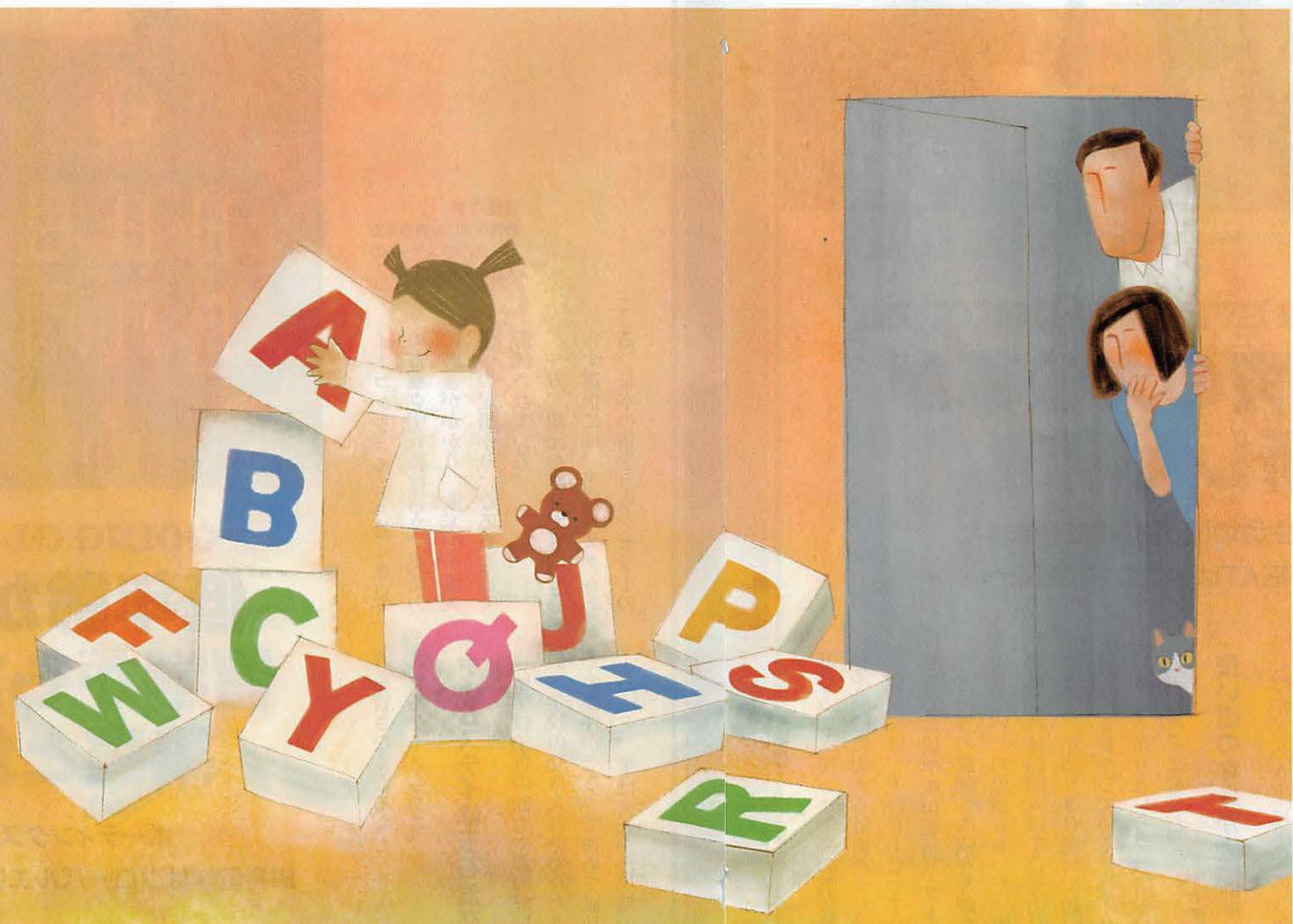
英語力の正しい伸ばし方

獲得するのは無理なのか。
そうとは言い切れない。日常会話以上の深い内容を理解・発信するには、耳で得る情報から文字情報の処理への移行が不可欠だ。そのため文字への対応が容易になる小学生のある時点では、英語力の育成に挑戦する選択肢もあり得る。

とはいえた「英語に親しむ」段階と、英文を読みこなし、自分の意見を表現できる段階には大きなギャップがある。小学1年生前後の英語初心者が、1年ほどで中学卒業レベルに達するところで注目される早稲田アカデミーIBS(東京)によれば、このギャップを超える条件の1つは何歳までにどの水準に達するという明確な目標設定だ。

「なんとなく楽しく続いているだけでは、なんとなくの成果しか残らない」と、松井義明主宰

かなりの家庭学習が求められるため、子供自身の強い意欲も必須だ。ただし学ぶ内容は、中学校以降にありがちな英文和訳や文法ではない。10歳前後までの子供は意味や構造が十分わからなくとも丸ごと吸収する能力が高いため、大量のインプットで表現のニュアンスや文法規則



を感じ取り、英語を英語のまま理解できるようになるという。大量の英語に触れる手段として多くの専門家が勧めるのがオックスフォード・リーディング・ツリーのようにレベル分けされた本を活用して大量の英文を読む「多読」だ。IBSではフォニックス（スペルと発音の関係）の学習と並行して、初級クラスで月に5万語、上位クラスは50万語の本を読む（公立中学校の教科書は3年間で1~2万語）。「日本語が入り込む余地

がないほど平易な本を大量かつスピーディーに読むことで、単語の語感や使い方まで体に染み込む。多読は日本にいながら留学するような効果をもたらす」と、松井は言う。

発音のハンディも克服可能

獲得するのは無理なのか。
そうとは言い切れない。日常会話以上の深い内容を理解・発信するには、耳で得る情報から文字情報の処理への移行が不可欠だ。そのため文字への対応が容易になる小学生のある時点で、「読む」「書く」を含む総合的な英語力の育成に挑戦する選択肢もあり得る。

とはいっても、英語に親しむ段階と、英文を読みこなし、自分の意見を表現できる段階には大きなギャップがある。小学1年生前後の英語初心者が、1年ほどで中学卒業レベルに達するところで注目される早稲田アカデミーIBS（東京）によれば、このギャップを超える条件の1つ

A young girl with dark hair tied back in a ponytail is standing behind a stack of large, light-colored wooden blocks. She is wearing a white long-sleeved shirt and red pants. She is holding a large red block with the letter 'A' on it. In front of her, several other blocks are visible, each with a different letter: 'F' (orange), 'W' (green), 'B' (blue), 'C' (green), 'Y' (red), 'G' (pink), 'J' (brown teddy bear), and 'H' (blue). The background is a warm, solid orange color.

確かに幼少期は言語習得に適した時期で、各言語に触れる時間が十分あれば複数の言葉を自然な形で覚えられる。日本人家庭の子がプリスクール（未就学児を英語で保育する施設）に週5日通うなどして、ネイティティブの子と大差ない流暢な英語を話す例も増えている。

だが多くの家庭にとって、プリスクールという選択肢は経済的にも心理的にもハードルが高いい。日本語の会話に支障が出ることは通常ないが、日本語での読書やコミュニケーションが手

An illustration showing three light-colored wooden blocks with large, bold letters on top. The first block on the left has a red letter 'S'. The second block in the center has a green letter 'R'. The third block on the right has a red letter 'T'. They are placed on a bright yellow surface against a grey wall.

発話量や語彙が多い子ほど、英語を聞いて正しく再生する反復力も高い」と、玉川大学教職大学院の佐藤久美子教授は言う。もちろん、幼少期に英語に触れることが無意味なわけではない。音声の習得に向いている時期だし、異文化に慣れたり、人前で堂々と話す訓練にもなる。音に敏感な児童の特性を生かすためには、発音面を丁寧に指導する教室を選ぶのがコツだ。さらに家庭でもDVDや絵本を使つて、継続的に英語に触れることが肝要だと専門家は言う。その際、注意すべきなのは子供だけに学習を押し付けないと。子供は親の好きなものに興味を持つため、英語が苦手な親も一緒に楽しむ姿勢を示し続けることが継続のカギだと、佐藤は言う。「音声面の成果は数字で測りにくいが、焦らず、期待し過ぎないこと。児童期に英語が楽しいというイメージを持てれば、後で本格的に学ぶときにやる気を保ちやすい」

一方、教室や家庭である程度英語に慣れると新たな悩みが出てくる。インターナショナルスクールなどの特殊な進路を選ばない限り、子供時代に「英語に親しむ」以上の高度な語学力を

発話量や語彙が多い子ほど、英語を聞いて正しく再生する反復力も高い」と、玉川大学教職大学院の佐藤久美子教授は言う。もちろん、幼少期に英語に触れることが無意味なわけではない。音声の習得に向いている時期だし、異文化に慣れたり、人前で堂々と話す訓練にもなる。音に敏感な児童の特性を生かすためには、発音面を丁寧に指導する教室を選ぶのがコツだ。さらに家庭でもDVDや絵本を使つて、継続的に英語に触れることが肝要だと専門家は言う。その際、注意すべきなのは子供だけに学習を押し付けないと。子供は親の好きなものに興味を持つため、英語が苦手な親も一緒に楽しむ姿勢を示し続けることが継続のカギだと、佐藤は言う。「音声面の成果は数字で測りにくいが、焦らず、期待し過ぎないこと。児童期に英語が楽しいというイメージを持てれば、後で本格的に学ぶときにやる気を保ちやすい」

一方、教室や家庭である程度英語に慣れると新たな悩みが出てくる。インターナショナルスクールなどの特殊な進路を選ばない限り、子供時代に「英語に親しむ」以上の高度な語学力を

は何歳までにどの水準に達する
という明確な目標設定だ。
「なんとなく楽しく続いている
だけでは、なんとなくの成果し
か残らない」と、松井義明主宰
は語る。

関係）の学習と並行して、初級クラスで月に5万語、上位クラスは50万語の本を読む（公立中学校の教科書は3年間で1～2万語）。「日本語が入り込む余地

間をどこまで英語に費やすかの
判断は各家庭の優先順位や目指
すゴールによつて異なるだらう
幸い、中学校入学まで英語に縁
がなくとも手遅れではない。

一方、小学校高学年以降は物事を分析的に把握する能力が高くなるため、文法規則は明示的に教えるほうが効率的。「ネイティブの子供は80ほどの主要不

J P R E P 齊藤塾（東京／山

中学・高校の学校教育は今も日本語に訳しながら英語を理解する方式が主流だ。だが英語で論議やエッセイ執筆ができる水準を目指すなら、中学生以降の

An illustration showing several large, white, three-dimensional blocks arranged on a yellow surface. The blocks are painted with the letters 'W', 'Y', 'O', 'M', 'I', 'N', and 'G' in green, red, pink, and blue respectively. The blocks are slightly tilted, giving them a three-dimensional appearance.

発話量や語彙が多い子ほど、英語を聞いて正しく再生する反復力も高い」と、玉川大学教職大学院の佐藤久美子教授は言う。もちろん、幼少期に英語に触れることが無意味なわけではない。音声の習得に向いている時期だし、異文化に慣れたり、人前で堂々と話す訓練にもなる。音に敏感な児童の特性を生かすためには、発音面を丁寧に指導する教室を選ぶのがコツだ。さらに家庭でもDVDや絵本を使つて、継続的に英語に触れることが肝要だと専門家は言う。その際、注意すべきなのは子供だけに学習を押し付けないと。子供は親の好きなものに興味を持つため、英語が苦手な親も一緒に楽しむ姿勢を示し続けることが継続のカギだと、佐藤は言う。「音声面の成果は数字で測りにくいが、焦らず、期待し過ぎないこと。児童期に英語が楽しいというイメージを持てれば、後で本格的に学ぶときにやる気を保ちやすい」

一方、教室や家庭である程度英語に慣れると新たな悩みが出てくる。インターナショナルスクールなどの特殊な進路を選ばない限り、子供時代に「英語に親しむ」以上の高度な語学力を

発話量や語彙が多い子ほど、英語を聞いて正しく再生する反復力も高い」と、玉川大学教職大学院の佐藤久美子教授は言う。もちろん、幼少期に英語に触れることが無意味なわけではない。音声の習得に向いている時期だし、異文化に慣れたり、人前で堂々と話す訓練にもなる。音に敏感な児童の特性を生かすためには、発音面を丁寧に指導する教室を選ぶのがコツだ。さらに家庭でもDVDや絵本を使つて、継続的に英語に触れることが肝要だと専門家は言う。その際、注意すべきなのは子供だけに学習を押し付けないと。子供は親の好きなものに興味を持つため、英語が苦手な親も一緒に楽しむ姿勢を示し続けることが継続のカギだと、佐藤は言う。「音声面の成果は数字で測りにくいが、焦らず、期待し過ぎないこと。児童期に英語が楽しいというイメージを持てれば、後で本格的に学ぶときにやる気を保ちやすい」

一方、教室や家庭である程度英語に慣れると新たな悩みが出てくる。インターナショナルスクールなどの特殊な進路を選ばない限り、子供時代に「英語に親しむ」以上の高度な語学力を

Newsweek 12 2016/03/22